

電気学会男女共同参画推進委員会 活動報告

電気学会男女共同参画推進委員会
委員長 花崎 泉

2007年に設置された男女共同参画推進特別委員会では、男女を問わず会員が活躍できる電気学会の体制構築にむけて、先行して男女共同参画推進に取り組んできた他学会・団体などの活動を参考にしながら、電気学会における現状を分析して実効性のある方策の立案・実行すること目的として活動を開始した。アンケートによる実態調査に基づき、1) 理工系分野に就学する女性の増加、2) 理工系キャリアの継続を目指した男女共同参画啓発活動 が重要課題であるとした。2期(4年間)の特別委員会の活動期間では十分な成果が見込めないことから、2011年、常設委員会として男女共同参画推進委員会を設置した。

男女共同参画推進委員会では特別委員会の活動方針を継承し、理工系進路選択支援ならびに働く環境整備としてダイバーシティの活用・推進について、技術者を目指す学生および学会員に啓発することを目標に、実効性のある方策を模索する活動をしてきた。

これまでの活動に関する以下の事項についての活動報告と分析所見を述べる。

1. 電気学会における男女共同参画推進状況調査
2. 男女共同参画推進の社会的動向ならびに政府の政策の把握
3. 電気学会における男女共同参画啓発活動
4. 女子中高生理工系進路選択支援
5. 電気学会男女共同参画のこれからの在り方検討結果

資料[1] 電気学会女性会員数__各種比率_2016

資料[2] 男女共同参画推進委員会活動_シンポジウム

男女共同参画推進委員会活動_掲載記事等

男女共同参画推進委員会活動_理系進路選択支援

1. 電気学会における男女共同参画推進状況調査

電気学会における男女共同参画推進状況を、女性会員の在会状況ならびに各種女性比率によりレビューする。

資料[1] 電気学会女性会員数__各種比率_2016

・女性会員の在会状況

若年層の会員数が多くなっていることから、技術者を目指す女性の増加が確認できる。これは、当委員会での工学系女子学生、理工系進路選択支援活動で把握してきた女子中高生の意識を裏付ける結果である。女性技術者育成が社会的にも認知され、教育機関、産業界にて支援の仕組みが拡充していることの証でもある。

20歳代はほぼ学生会員(大学院生)であり、25歳から30歳代前半にて就職先が決定する。20歳代後半での正員の就職先が「学生」が多いのは、まだ就職先が決定していないことを意味している。会員増のためには就職後に学生会員から正員への移項を促進し定着させることが重要である。特別委員会(GESC)で実施したアンケート調査から、電気分野の女子大学院生の就職傾向は男子大学院生との差は見られない。このことから、若年層への支援は女性に限らず、男女を問わず取り組むべき課題である。

・女性会員の推移

統計を取り始めたH21年(2009年)から、女性会員数は微小ではあるが増加傾向、女性学生会員数は男女共同参画推進の社会的動向、女子学生理工系進路選択支援の推進の追い風も受け、絶対数でも増加しており、この傾向は今後とも続くと予想される。

学会内での役職者数(会長・副会長・理事・幹事・評議委員・代議委員)の女性比率ならびに

委員会の女性委員比率はほぼ会員全体の女性比率となっている。

第4次男女共同参画基本計画では、研究者・技術者の男女別の活動状況や実態の統計的データの収集・整備し経年変化を把握する体制が望まれているため、この種のより詳細なデータ収集する体制整備を急ぐべきである。

2. 男女共同参画推進の社会的動向ならびに政府の政策の把握

資料 [2] 男女共同参画推進委員会活動_掲載記事等

- ・内閣府男女共同参画局のリコチャレ応援団（前：チャレンジキャンペーン）、理工系女子応援ネットワークに登録 <http://www.gender.go.jp/c-challenge/>

政府の男女共同参画推進の方針により、文部科学省による女子中高生理系進路選択支援プログラム、経済産業省による理系女性活躍支援事業が強化される。

（理工系女子応援ネットワーク会議 2016年10月20日開催にて報告あり）

電気学会は女子学生の理工系進路選択支援活動の実績をもって理工系女子応援ネットワークへ登録、上記会議に出席することにより政府の政策把握が可能となった。また、電気学会内で種々の活動を「リコチャレ応援団」の取組みを利用して教育機関ならびに関連機関に広報するなど、積極的に政府の仕組みを利用することが得策である。

- ・男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバ参加、退会 <http://www.djrenrakukai.org>

学協会連絡会の主な活動は、2年ごとの大型アンケートとその結果を政府に提言、年1回のシンポジウムにて加盟学会・団体間での活動状況に関する情報交換や討論会を実施している。活動の対象は女性研究者の環境整備に関する事項が多く、女性技術者を対象とした調査や活動は未着手、関心が薄い。イベントの協賛を依頼するが、あまり広報には効果は見受けられなかった。2016年、当学会の活動の参考となる一定の情報収集を完了したことより退会した。

- ・独立行政法人国立女性教育会館 <https://www.nwec.jp>

中高生理系進路選択支援事業「夏の学校」を通して、中高生ならびに教員・保護者の理工系進路選択に対する意識動向を調査してきた。継続参加することにより主催団体が研究者育成を主としているところ、工学系学会の立場で継続参加することにより技術者育成の取組みをアピールしてきた。

現理事長（産業界出身）により、近年技術者向けのダイバーシティ推進に関する活動が活発になり、種々のシンポジウムやイベントを提供するようになった。電気学会における人材活用の参考となりうる。

- ・一般社団法人「ジャパンダイバーシティネットワーク」が2014年に発足

<https://diversity.or.jp>

産業界や工学系・技術系団体はダイバーシティ推進・活用が関心事であり、「ジャパンダイバーシティネットワーク」を2014年に創設した。ダイバーシティ（多様性）推進に関する活動を展開中である。特別委員会でのアンケート調査や、当委員会主催のシンポジウム参加者へのアンケート調査結果より、電気学会員はダイバーシティへの関心が高いことから、ダイバーシティ推進を目的とする団体に加盟することにより会員へ当該分野における活動の利便を図ることも検討に値する。

- ・他学会・団体の動向

電子情報通信学会：2004年男女共同参画委員会設置、2009年男女共同参画学協会連絡会幹事学会を務めるがその後退会の意向を表明、現在オブザーバ参加、2012年よりホームページには活動報告なし

機械学会：Ladies' Association of JSME 女性会員の交流会的活動

情報処理学会：WebサイトにCOPINE女性IT技術者応援ネットワークを開設

土木学会：男女共同参画小委員会からダイバーシティ推進小委員会 2013.1

早稲田大学：男女共同参画推進室を発展的に改組

ダイバーシティ推進室を開設 2016.7.1

産総研：男女共同参画室よりダイバーシティ推進室に改組 2011.1

科学技術振興機構：男女共同参画の取組みをダイバーシティ推進室に移項 2014. 3
首都大学東京：ダイバーシティ推進室を開設 2011. 9
筑波大学：男女共同参画推進室からダイバーシティ推進室 2012. 4
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ部門 2015. 1

先行して男女共同参画推進に取り組んできた団体・学会では、男女共同参画推進をダイバーシティ推進の一部として位置づけ活動を拡大していることが伺える。

3. 電気学会における男女共同参画啓発活動

資料[2]男女共同参画推進委員会活動_掲載記事等

・シンポジウム、講習会の開催

電気学会の関連分野における男女共同参画推進に向けての啓発活動として、全国大会でのシンポジウム開催、学会誌への記事掲載ならびに講習会開催を試行した。

資料[2] シート「開催シンポジウム」「電気学会紙掲載記事」「開催講習会」

テーマは、電気学会関連産業界にて関心の高かった、女性技術者の育成と技術者が働き続ける環境整備についてである。聴講者のアンケートからは関心の高さ、ダイバーシティ活用、マネジメントに関する意識の高さが確認できた。

運用面で学会内外への広報、登壇者（講師）の人選において実行性のある方策の確立を模索してきたが、費用対効果も鑑み当委員会での主催継続は困難であると言わざるを得ない。対策案の一つとして、国立女性教育会館のイベント情報を提供する仕組みの導入や、ダイバーシティ推進を目的とする団体に電気学会として加盟して会員に情報を提供できる体制を確立することなどを検討すべきである。

・学会誌への記事掲載

学会誌に活動状況報告記事を掲載、またシンポジウム「女性エンジニア育成支援」を受けて特集を組んだ。特集号については、学会誌編集委員がシンポジウムテーマを特集テーマとして選択したことにより特集号として掲載するに至ったが、学会誌編修スケジュールが編修委員会にて決定していることから持ち込み記事として掲載することは難しいのが現状であった。

4. 女子中高生理工系進路選択支援

資料[2] 男女共同参画推進委員会活動_理系進路選択支援

・女子中高生理工系進路選択事業「夏の学校」に参加

「夏の学校」は国立女性教育会館で開催される日本では最大級の女子中高生理工系進路選択イベントの一つである。当委員会では2011年の東日本大震災の年を除き2008年より継続参加し、電気工学関連分野の技術や技術者育成に向けての啓発活動を実施するとともに、女子中高生の理系進路選択に対する動向、女子中高生をとりまく教員・保護者の意識を調査してきた。

近年の女子中高生の理工系進路に対する意識は格段と向上してきている。女子は理系が苦手で理系では働く場所がない、といった偏見は無くなっている。保護者が男女雇用機会均等法を経験している年齢となっていることもあり、学生、保護者ともに理工系産業界での仕事内容、働く環境に関する関心が高まっている。

電気学会としては、電気分野関連の技術、技術者の役割、働く環境についての情報提供を継続すべきである。女性技術者・研究者のロールモデルの提供が提唱されているが、ロールモデル提供において性別は関係ない。学生の性別に関する意識は薄くなっていること、女性の少ない業界では女性技術者・研究者のロールモデルの提供では技術者を求めている範疇をカバー仕切れないことから、技術者としての仕事内容、働き方を広く広報すべきである。

・当委員会主催の中高生理工系進路選択イベントの開催

電気学会独自の中高生に向けての広報経路の開発を目指した。工学系大学との連携、スーパー

サイエンス高校をターゲットにイベントを開催した。

イベント内容は学生、教員ともに好評で、理工系進路選択の動機付けとして成功であった。しかし、参加者募集や広報経路の開発においては、担当者の個人的ネットワークに依るところが大きく、また大学・高等学校のそれぞれの立場も影響して協力を得ることが難しく、学会独自の広報経路の確立は困難であることが判明した。参加者を女子学生に限定する試みもあったが、男子中高生の参加希望、参加を促す高等学校、中学校も性別を意識させないようにとの要望があった。

これまでの女子中高生理工系進路選択支援活動より、近年では女子学生独自の問題、女子学生に限定しての働きかけを考慮する必要は無く、男女を問わず支援を継続することが重要であることが再認識された。

・電気学会内での理工系進路選択支援イベント

電気学会内では、各部署において種々の技術啓発イベントが主催されている。これまでの広報活動に加え、内閣府男女共同参画局のリコチャレ応援団を利用して広報範囲を拡大する。

5. 電気学会男女共同参画のこれからの在り方検討結果

電気学会内での男女共同参画活性化にむけての現状から今後の在り方について検討した結果を述べる。当委員会ではこれまでの活動を通し、理工系進路選択までの過程では女性が非常に少ない状況を踏まえ女子学生に向けての啓発活動が必要であると認めてき活動してきたが、進路選択後においては男女を区別する必要はなく、男女を問わず個々の能力を活用しともに働き続ける環境の整備を目指すべきであるとの見解に至った。男女共同参画活性化のための方策は、少人数である女性を対象として検討されることになるが、その結果は女性に限らず電気学会員の活躍促進に向けての方策と概ね一致する。当委員会で女性会員活躍促進に向けての方策を検討するも女性独自の対策は見当たらず、他部署の取組みとの重複を考慮して実行に移せない事案もあった。男女共同参画活性化は、全電気学会員の活躍促進の部分的な活動として位置づけることにより、学会全体として効率的な活動が可能となると考えられる。

電気学会ならびに関連産業界では、男女を差別せずに優秀な人材を積極的に受け入れる地盤がある。また、女性会員の意識も同様で、女性であることを条件とした登用や奨励を嫌い、個々の能力を発揮する環境の整備を望んでいる。近年、ダイバーシティ（多様性）が産業界で注目されその活用推進されつつあるが、電気学会でのアンケート調査では当初からダイバーシティの活用が意識されてきている。電気学会における会員活躍促進は、性別だけではなく、年齢・経歴・専門性・国籍などの個々の能力を活かす「ダイバーシティ推進」を基盤とした方策が適している。女性活躍推進を牽引している学会・大学・団体が、男女共同参画を「ダイバーシティ推進」に関する部署に移行していることから社会的な傾向であると認められる。電気学会は男女共同参画の取組みにおいては後塵を拝したが、後発組の利点をいかした情報収集や各種の試行により、技術者の活躍推進を牽引するためには「ダイバーシティ推進」を押し進めることが重要であると早期に認識するに至った。電気学会や関連産業界が人材の多様化に肯定的な姿勢であることから、電気学会が「ダイバーシティ推進」のリーダーシップ的立場となると期待できる。

以上を踏まえ、電気学会の各部署を統括する理事会にて電気学会における学会員活躍推進のため「ダイバーシティ推進」に関する議論を活性化することを要望する。